

13日にも米で墜落事故

危険なオスプレイ、配備撤回を



「これだけ墜落事故を繰り返しているオスプレイの配備方針は、白紙に戻すべきだ」――。日本共産党の赤嶺政賢衆院議員は6月15日、米フロリダ州で米空軍の垂直離着陸機オスプレイ（CV22）が起った墜落事故を受け、衆院安全保障委員会で質問。沖縄の米海兵隊普天間基地へのオスプレイ（MV22）配備計画を撤回するよう、政府に迫りました。質問の要旨を紹介します。

日本共産党

機体が原因でないとの「客観的データ」があつて言ってるのか（赤嶺議員）
機械的不具合ではないと米国から「通報」があつた（森本防衛大臣）

政府はこれまで、オスプレイは「量産開始以降は安全性に問題ない」と説明。海兵隊のMV22オスプレイの事故率について、現在使用中のCH46ヘリコプターよりも低いとし、その「安全性」を宣伝してきました。しかし、4月11日にモロッコ、今月13日にフロリダと、2カ月間に2度も墜落事故が発生。事故の原因究明も待たずに配備計画をすすめるようとする政府に対し、赤嶺議員は「いったん白紙に戻し、再検討すべき」「都合のいい情報だけ流すのはやめよ」と迫りました。

●赤嶺議員 「淡々と計画通りに進める」との森本大臣発言をあげ、これだけ墜落事故を繰り返している以上、配備方針は一旦白紙に戻し、再検討すべき。（機体が原因ではないという）客観的根拠は米国側から示されているのか。

オスプレイの墜落事故	
1991年6月	米アラウエア州（試験機）、死者なし
92年7月	バージニア州（試験機）、7人死亡
2000年4月	アリゾナ州（訓練中）、19人死亡
12月	ノースカロライナ州（訓練中）、4人死亡
10年4月	アフガニスタン・ザブール州（作戦中）、4人死亡
12年4月	モロッコ（訓練中）、2人死亡
6月	米フロリダ州（訓練中）、5人負傷（時事）



「youtube」masato yagi氏の投稿動画より。プロペラのバランスが合わず、離陸して10秒で墜落

空軍と海兵隊を合わせた事故率データ持ってない（西防衛政策局長）
偏った事故率示して「安全」とするのは国民への背信行為（赤嶺議員）

「オスプレイのほうが事故率が低い」としてきた日本政府。しかし、モロッコでの墜落でオスプレイの10万飛行時間あたりの事故率は1・93となり、CH46ヘリの1・11を上回りました。さらに、赤嶺議員は、政府が空軍用の同型機（CV22）を別扱いにし、海兵隊のみの数字を示して事故率を低く見せてきたことは「国民に対する背信行為だ」と厳しく批判。海兵隊・空軍を合わせた「V22」の事故率を示すべきだと迫りました。

●赤嶺議員 CH46はモデル全体の事故率を示すのに、

なぜオスプレイは示さないのか。

○西正典防衛政策局長 事故率について問い合わせるが、まだデータのリリースを受けていない。

○森本防衛大臣（装備品その他を除いて）オスプレイの基本設計は同じ。

●赤嶺議員 海兵隊のもの（事故率）だけをもって安全だとしてきた姿勢は改めよ。

オスプレイ配備で、飛行回数が3・7倍に増加
騒音防止協定にも違反。日本政府は絶対に拒否すべきだ（赤嶺議員）

防衛省が13日に公表した、オスプレイの普天間配備にかかわる米軍の「環境審査（レビュー）」。普天間基地を飛び立ったオスプレイが伊江島補助飛行場、北部訓練場、中部訓練場など沖縄本島全域で訓練を行うことを明記しており、オスプレイが訓練で使用する「戦術着陸帯」は50カ所にのぼります。また、レビューによると、普天間基地での夜10時～翌朝7時までの飛行回数は、MV22オスプレイが配備されれば現在の3・7倍（280回）に。赤嶺議員は、この時間帯はそもそも同基地の騒音防止協定（1996年）で飛行を最小限に制限することが合意されたはずだと追及しました。

●赤嶺議員 「これまでも米軍の『運用上の所要』を理由に守られてこなかった。しかし、これでは『騒音防止協定など最初から守る気などない』ということではないか。何でこんな中身になっているのか。

○山内正和防衛省地方協力局長 増加の理由について米側に確認を行っている。できる限り夜間飛行を行わないよう米側に強く働きかけたい。

●赤嶺議員 米軍はいまままでの協定さえ守っていないのに、もっと増大させるといふ。政府は『絶対に受け入れられない』と言うべきだ。